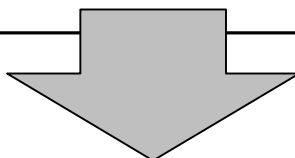


「これからの教育環境を考えるワークショップ」の取組

- ・第1回：施設見学「小中一貫教育校の見学」(奈良市富雄第三小中学校) <参加者数 27名>
- ・「施設見学報告会」 <参加者数 14名>
- ・第2回：ワークショップ「校区の小中学校で行っている良いと感じること」【今】
<参加者数 31名> 「校区の小中学校にはないが良いと感じること」【これから】
- ・第3回：ワークショップ「中学校のことってどれくらい知ってますか？小学校のことより知らないのはなぜ？」
<参加者数 39名> 「『学校』『地域』ができること、やってほしいこと？」
- ・第4回：学校統合の事例紹介～実際の学校統合を通じて(経験者の声)～ <参加者数 42名>
- ・第5回：ワークショップをふりかえって(総括) <参加者数 43名>



これまでの取組から

- 子**どもたちにはいろんな経験をさせることが大切というのが、様々な意見に共通している点。いろんな人たちとコミュニケーションし、豊かな人間性を育むことが、これから人生を過ごし、社会生活を営んでいく上での基礎となり重要。
- 子**どもたちを丁寧に見守り、育てていくためには、幼稚園や保育園・所と小学校、小学校間、小学校と中学校などでの子どもの交流や教員の連携が大切だが、現状では物理的、時間的な制約もあり難しい。
- 小**学校については、教育コミュニティが根付き、いろんな立場の方が学校に関心を持ち、保護者や学校だけでなく、地域全体で子どもたちを育てていただいている状況。
- 中**学校においては、複数の小学校区で構成されているということもあり「地元」という意識が薄れ、地域と学校の関わりや交流が少なくなる傾向が大きい。学校からの情報発信が少ない、学校に行く機会がない、距離や就学期間の短さも影響して、総じて「よく知らない」とう状況。
- 中**学校区単位での地域対抗イベントや防災訓練の実施など、地域連携の強化や学校情報の共有など、中学校においても保護者・地域住民が学校に関心を持ち、支えていくことが大切。